

令和4年度 事業報告書



独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立大洲青少年交流の家

目 次

刊行に寄せて	1
国立大洲青少年交流の家 グランドデザイン	2
国立大洲青少年交流の家 組織図・関係者一覧	3
事業運営の概要	5
1 教 育 事 業	
2 研 修 支 援	
3 連 携 促 進	
4 今後の課題	
その他の取組	12
令和4年度実施事業一覧	13
令和5年度実施事業計画一覧	14

刊 行 に 寄 せ て

文部科学省は、令和4年2月に「教育進化のための改革ビジョン」において、コロナ禍で縮小した「リアルな体験」の機会を充実させることが重要であり、令和4年度を「体験活動推進元年」、令和6年度までの3年間を「体験活動推進重点改革3か年」と位置付けて取組を推進していくとの方針を公表いたしました。

当機構においても青少年教育の振興と健全な青少年の育成の一層の推進を図るため、新たに「青少年一人ひとりが幸福を追求できる持続可能な社会の実現」をビジョンとして掲げ、すべての子供たちに、より多くの体験活動の機会とより質の高い体験活動の提供に努めるなど、今まで以上に力を尽くすことを改めて示しました。

そこで、当施設においては、青少年を取り巻く環境の変化や青少年を巡る様々な課題に対応するため、国及び当機構等の方針を踏まえ、青少年及び青少年指導者等を対象とした教育事業をはじめ、学校関係団体等への地域の豊かな教育資源を活用した体験活動の提供や研修支援、青少年教育指導者等の養成、青少年教育関係機関や団体との連携促進等の取組を進め、体験活動の重要性の普及啓発、体験活動の場や機会の充実に努めてまいりました。

具体的には、特色あるプログラムの開発事業として教育テーマ「やり抜く力の育成」を目指した「チャレンジカヌーツーリング」、実践研究事業「伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村」等をはじめとした、これまでの成果の継承・発展に取り組んだ事業に加え、読書活動普及啓発事業「絵本ライブ&ラリー」「本とホント探索隊」、SDGs 関連事業「親子で SDGs 秋を楽しもう!」、伝統文化体験事業「書道で感動!親子でわくわく体験」等を企画・開催し、社会の要請や教育的課題に対応した事業を新たに実施しました。

また、これまで大洲地域を中心として取り組んできた「体験の風をおこそう」運動推進事業については、県域に展開・拡大させるため、名称を「愛媛から体験の風をおこそう」運動推進事業に変更いたしました。当事業においては「親子でアウトドア」で多くの親子にカヌー体験を提供するとともに、いずれも3年ぶりの開催・出展となった「体験フェスティバル」「大洲まつり」「えひめ生涯学習夢まつり」等において、多数の方にお越しいただき、体験活動の楽しさや大切さを味わっていただきました。

コロナ禍の影響により厳しい状況が続いておりますが、各取組において得られた成果を更に生かすとともに、新たな課題を今後の改善や発展の視点としてつなげることで、より効果的な事業設計や運営に結び付けたいと考えております。今後も不易と流行を的確に捉えながら多くの子供たちに質の高い体験活動を提供し、一人一人の豊かな成長と発達を支援することで、当施設のビジョン「誰もが学びと成長を実感できる施設」の実現に一層努めたいと考えております。

ここに、今年度の事業運営の概要を報告させていただきます。青少年教育関係者の皆様に幅広く御活用いただきますとともに、忌憚のない御意見などをいただければ幸いに存じます。なお、各事業の詳細につきましては、当施設ホームページに掲載いたしますので、御高覧ください。

結びに、今年度の事業の実施にあたり、学校教育及び社会教育関係機関・団体、地域の皆様から多大な御支援・御協力をいただきましたことに深く感謝を申し上げますとともに、今後とも一層の御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立大洲青少年交流の家
所 長 向 井 繁 一



令和4年度国立大洲青少年交流の家 グランドデザイン

ミッション 〈使命〉

仲間と共にやり抜く力を伸ばす青少年の育成

変化の激しい社会で、自ら課題の解決に挑み、仲間と共にやり抜く人間力の育成

ビジョン 〈未来〉

誰もが学びと成長を実感できる施設

— あなたの体験を あなたの感動と力に —

- ◇ 「来てよかった」 満足度向上 教育事業 最上位評価 平均85%以上
- ◇ 「また来たい」 リピート意向 研修支援 最上位評価 平均90%以上
- ◇ 「行ってみたい」 新規獲得 アプローチ 50団体以上

バリュー 〈価値〉

新たな「出会い」と魅力ある「挑戦」、熱い「感動」の創出

アクション 〈取組〉

国立大洲青少年交流の家は、青少年教育のナショナルセンターとして

【教育テーマ】 やり抜く力の育成

【キャッチコピー】 出会い・挑戦・感動の大洲

- 1 地域の豊かな教育資源と施設機能の活用によって、魅力ある体験活動を展開し、学びの効果を高め、青少年の健全育成に努めます。
- 2 大洲・肱川の自然に親しむ体験活動を通して、環境保全の大切さに気付き、実践しようとする青少年を育てるとともに、SDGsの取組を推進します。
- 3 施設設備の安全点検、衛生管理、防犯対策の徹底を図るとともに、安全管理研修等を通して、職員の危機管理意識及び実践力の向上に努め、安全安心な施設づくりを推進します。
- 4 「やり抜く力の育成」に焦点を当てた教育事業の改善・充実に努めるとともに、効果の検証と指導の改善に取り組みます。
- 5 国土強靱化基本計画や大洲市地域防災計画等を踏まえて、避難所機能等の役割を果たすとともに、防災教育の推進に取り組みます。
- 6 関係市町教育委員会等と連携し、「ふれあいスクール」の効果的な運営に努めるとともに、体験活動を通して仲間意識や協調性の育成に努めます。
- 7 「体験の風をおこそう」運動及び「早寝早起き朝ごはん」国民運動を連動的に推進し、体験活動や基本的生活習慣、読書活動の重要性を普及啓発します。
- 8 ボランティアや青少年教育指導者等の養成・育成を推進するとともに、当施設や地域での活躍の場を提供し、人材の育成に努めます。
- 9 公立の青少年教育施設や教育関係機関、社会教育関係団体、企業等、多様な関係者との連携・協力を図り、青少年教育の振興に努めます。
- 10 広報及び利用促進に努め、幼児から社会人まで幅広く利用される施設づくりを目指します。

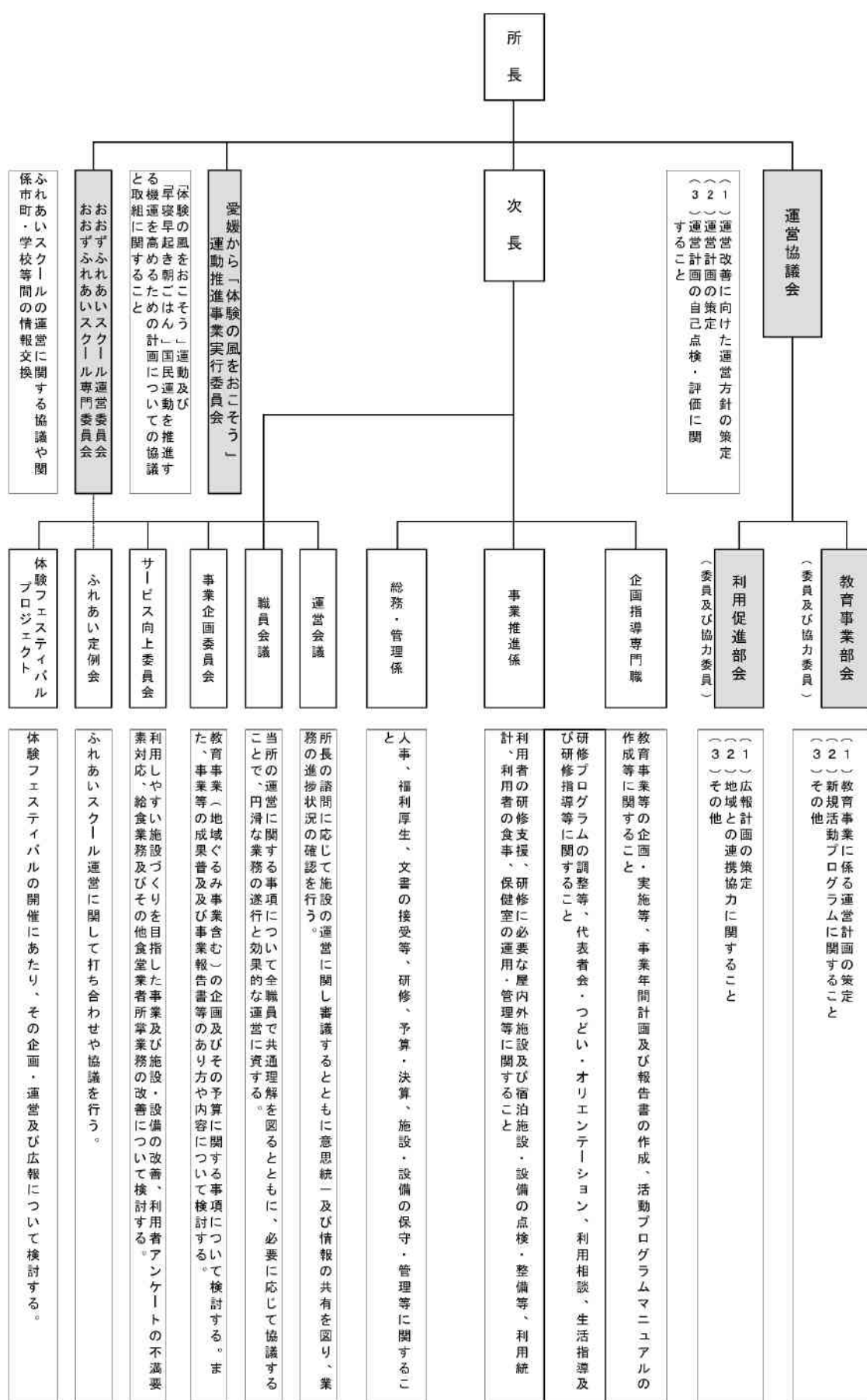
ポリシー 〈業務〉

国立大洲青少年交流の家の職員は



Ownership(当事者意識)	自ら挑戦！	共に学び、楽しみ、感動を求めます。
est(熱意)	利用者第一！	笑顔と誠意で満足度向上に努めます。
Unity(結束)	出会いに感謝！	全職員の連携と協働で信頼に応えます。

令和4年度国立大洲青少年交流の家組織図・委員名簿一覧



運営協議会委員名簿

番号	役 職	氏名
1	愛媛県PTA連合会 会長	大西 祥一
2	大洲市教育委員会事務局 教育部長	城戸 弘一
3	株式会社ケーブルネットワーク西瀬戸 制作・編成部 部長	城戸 輝芳
4	国土交通省四国地方整備局 大洲河川国道事務所 所長	小竹 良
5	松山東雲女子大学 元学長	塩崎 千枝子
6	愛媛ボランティア学習研究会 事務局長	柴崎 あい
7	愛媛県歴史文化博物館 館長	清水 孝一
8	国立大学法人愛媛大学 教育・学生支援機構 教職総合センター准教授	高橋 平徳
9	愛媛県小中学校長会 副会長 愛南町立城辺小学校 校長	中尾 茂樹
10	愛媛県教育委員会 社会教育課長	水田 寿雄
11	人間牧場主	若松 進一
12	国立大学法人愛媛大学 総務部長・国際連携支援部長	和田 和敬

おおずふれあいスクール専門委員会委員名簿

番号	役 職	氏名
1	大洲市立長浜中学校 養護教諭	有友 昌子
2	大洲市立肱東中学校 校長(運営委員)	市川 努
3	大洲市立栗津小学校 生徒指導主事	大川 博晴
4	大洲市立長浜小学校 養護教諭	大津 仁子
5	大洲市立肱東中学校 養護教諭	菊池 朋子
6	大洲市立久米小学校 生徒指導主事	河野 覚志
7	大洲市立平小学校 養護教諭	高岡 久美子
8	大洲市立平野小学校 養護教諭	高橋 寿子
9	大洲市立肱川中学校 生徒指導主事	築山 恵司
10	大洲市立大洲北中学校 生徒指導主事	二宮 文治
11	大洲市立喜多小学校 生徒指導主事	平田 育嗣
12	大洲市立新谷中学校 養護教諭	松本 笑香
13	大洲市立菅田小学校 養護教諭	森岡 初美
14	大洲市立大洲南中学校 養護教諭	森本 由美

運営協議会 利用促進部会委員名簿(協力委員のみ)

番号	役 職	氏名
1	(株)ケーブルネットワーク西瀬戸 制作・編成部 部長	城戸 輝芳
2	愛媛新聞社 大洲支局長	薬師神 亮太

運営協議会 教育事業部会委員名簿(協力委員のみ)

番号	役 職	氏名
1	国土交通省四国地方整備局 大洲河川国道事務所 所長	小竹 良
2	大洲市カヌー協会理事長	島村 弘幸
3	大洲市教育委員会 教育長	東山 宏
4	大洲市長	二宮 隆久
5	愛媛大学教育学部教授	日野 克博

おおずふれあいスクール運営委員会委員名簿

番号	役 職	氏名
1	大洲市立肱東中学校 校長 (専門委員会委員長)	市川 努
2	八幡浜市教育委員会 教育長	井上 靖
3	愛媛県立大洲高等学校肱川分校 分校長	菊池 正敏
4	大洲市教育委員会・八幡浜市教育委員会 心理療法士・メンタルトレーナー	幸田 裕司
5	八幡浜保健所 難病母子保健係長	曾我 直世
6	大洲市教育委員会 教育長	東山 宏
7	伊方町教育委員会 教育長	中井 雄治
8	愛媛県立長浜高等学校 校長	中村 惣一
9	国立大洲青少年交流の家 企画指導専門職	二宮 啓
10	内子町教育委員会 教育長	林 純司
11	大洲子育てサポート そよ風 チームリーダー	藤原 郁仁
12	西予市教育委員会 教育長	松川 伸二
13	国立大洲青少年交流の家 所長	向井 繁一

愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員名簿

番号	役 職	氏名
1	宇和島山岳会 副会長	有田 信彦
2	大洲青年会議所 理事長	福田 裕
3	愛媛県歴史文化博物館 学芸課長	井上 淳
4	愛媛県PTA連合会 会長	大西 祥一
5	大洲市教育委員会 教育部長	城戸 弘一
6	株式会社ケーブルネットワーク西瀬戸 制作・編成部 部長	城戸 輝芳
7	大洲市カヌー協会 理事長	島村 弘幸
8	愛媛県立大洲農業高等学校 校長	永井 伊秀
9	愛媛県教育委員会事務局社会教育課 担当係長	中島 弘二
10	愛媛県国公立幼稚園・こども園教育研究協議会 副会長	宮下 直子
11	愛媛県連合婦人会 会長	三好 康子
12	国立大洲青少年交流の家 所長	向井 繁一

※氏名50音順及び敬称略

※各委員はR5.1.1時点の現職

事業運営の概要

令和4年度は第4期中期目標期間の2年目に当たるとともに、文部科学省がコロナにより縮小した体験活動を全国で充実させるため、「体験活動推進元年」と位置づけた。文部科学省から定められた「中期目標」及び当機構の「中期計画」や「ビジョン：青少年一人ひとりが幸福を追求できる持続可能な社会を実現する」を踏まえた上で、当施設のグランドデザインにも示すとおり、国の青少年教育における政策課題や喫緊の青少年の課題に対応した効果的な事業運営に努めた。その概要は以下のとおりである。

1. 教育事業

(1) 青少年の体験活動等の重要性の普及啓発事業

愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業 「親子でアウトドア」

1 概要

体験活動を通して、自然の素晴らしさ・体験活動の楽しさを実感するとともに、親子や参加者相互のふれあいを通して、豊かな心を育むことを目的に、当施設の人気プログラムであるカヌーの体験事業を日帰り（午前・午後）で6回企画した。また、事業を通して、「体験の風をおこそう」運動・「早寝早起き朝ごはみ」国民運動を推進した。



2 参加人数 第1回：22組46名 第2回：21組46名

第3回：23組52名 第4回：21組47名 ＊第5回・第6回は荒天のため中止

3 満足度 ＊満足：95.3％ ＊やや満足：4.7％ ＊やや不満：0％ ＊不満：0％

4 成果

子供たちだけでなく保護者も一緒になってカヌーを楽しみ、野外活動や体験活動の良さや大切さを実感できる場や機会を提供することができた。また、子供たちからはカヌーに乗りながら「水の中に何か生き物がいるよ。」や「ここはものすごく深そう。」といった発言が聞かれ、自然のフィールドに興味や関心をもたせることもできた。

愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業 「体験フェスティバル in 交流の家」

1 概要

様々な体験プログラムを通して体験活動の視野を広げるとともに地域住民の交流を図ることを目的に、多くの地域住民の参加を得て地域づくりの一拠点として「国立大洲青少年交流の家」においてフェスティバルを開催した。また、令和4年10月が「体験の風をおこそう推進月間」であることから、子供や保護者を対象に自然体験や生活体験等に取り組む「子ども体験遊びリンピック」を同時開催した。



2 参加人数 未就学児から大人まで1,250名

3 満足度 ＊満足：90.2％ ＊やや満足：8.7％ ＊やや不満：0％ ＊不満：0％ ＊無回答：1.1％（262名の回答）

4 成果

多くの来場者が見込まれるため、新型コロナウイルス感染症の感染対策を十分に講じた上で事業を実施した。カヌー体験をはじめ、クライミング体験、流木クラフト、昭和の遊び体験等、多くのブースを出展するとともに、「子ども体験遊びリンピック」として紙ひこうき飛ばし大会を開催し、多くの参加者に楽しんでもらえた。

(2) 社会の要請に応える体験活動等事業

体験活動普及啓発事業「絵本ライブ&ラリー」(1年目)

1 概要

「With BOOK(本と共にある)」をコンセプトに、フリースタイルフットボールプレイヤーによるライブパフォーマンスとトークライブをきっかけに、身体感覚を伴う体験活動として「フリースタイルフットボール体験」を行った。

また、絵本専門士とともに身体や五感にまつわる絵本の多読会を行い、感性を磨き、言葉を学び、表現力や想像力を豊かにする機会を設けた。さらに、保護者を対象に、絵本専門士による読書や体験活動の意義に関する講義も行った。



2 参加人数 45人(未就学児3名 小学生28名 保護者14名)

3 満足度 *満足:95% *やや満足:0% *やや不満:5% *不満:0%

4 成果

ホール内いっしょに広がる「からだ」と「五感」に関する絵本ライブラリーに、たくさんの絵本を読もうと必死になって絵本を探しだし、読む姿があった。一人で読むのではなく、誰かがそばにいて共に読む時間と場所があるからこそ、集中して多読する機会となった。「体験」もしくは「読書」がきっかけとなり、探求心につながる相互作用を感じる事業となった。

体験活動普及啓発事業「本とホント探索隊」(1年目)

1 概要

「With Book」をコンセプトに、外国にルーツのある親子等を対象に、柑橘実験ショーと絵本作りワークショップを通して、親子で絵本にふれる楽しさを体感できる場と多文化共生の社会づくりの場を提供した。

2 参加人数 21名(未就学児2名 小学生4名 在住外国人7名 保護者8名)

3 満足度 *満足:95% *やや満足:5% *やや不満:0% *不満:0%

4 成果

実験的マーマレード作りは、煮詰める時間に「It's Magic!」と参加者からマジック(手品)発表も飛び出し、人間関係にも変化が起きた。絵本やファシリテーション・グラフィックを用いることにより、多言語の場も自然に交流が生まれた。逐次通訳と「やさしい日本語」を介して、多国籍・多言語でも親戚の集まりのような空間が生まれ、参加者同士が連絡先を交換し合う姿も見られた。参加者が絵本を抱きしめている姿や窓辺で一生懸命に発表の練習している姿に心を打たれた。絵本による日本語習得と国際交流の可能性を感じた。



体験活動普及啓発事業「親子で感動!親子でわくわく体験」(1年目)

1 概要

紙すき体験や書道体験を通して、達成感や創造力、自己肯定感の向上を図るとともに、日本の伝統文化や芸術の書道のすばらしさを体感する場を提供した。また、保護者に対し、体験活動等の重要性を啓発するとともに、活動の様子や書き初め等の作品展も開催するなど成果を発信することを通して、広く普及・啓発を図った。

2 参加人数 53名(子供30名、保護者23名)

3 満足度 *満足:92.0% *やや満足:8.0% *やや不満:0.0% *不満:0.0%

4 成果

愛媛県立川之石高等学校は、南予で唯一「書道パフォーマンス甲子園」に参加している学校であり、南予で開催する事業の講師として適任であった。パフォーマンスや作品には迫力があり、参加者の感動を得ることができた。午後の交流書道教室の講師として小学生や保護者と交流を深めながら優しく指導する活動は、高校生にとっても学びの場となった。

紙漉き体験、落款作り、書道パフォーマンス、交流書道教室のプログラム構成は、参加者から「充実した一日で楽しかった」「また参加したい」と好評であり、本来のねらいを十分に達成することができた。



「親子でSDGs 秋を楽しもう！」(1年目)

1 概 要

SDGs 関連事業の一環として、県下の小学4～6年生の児童と保護者を対象に、国立大洲青少年交流の家を会場にした一日体験活動を企画した。SDGsに係る3つの体験プログラムを試行し、参加者のSDGs実践への意欲付けを図った。事後には、館内掲示物やホームページでの学習成果の啓発を行った。

2 参加人数 26名(子供13名、保護者13名)

3 満足度 *満足:92.0% *やや満足:8.0% *やや不満:0.0% *不満:0.0%

4 成 果

初めて企画したSDGs関連事業であったが、食の問題からグローバルな環境問題へと広げていく3つのプログラム構成と順番が効果的で、参加者の学びの質や意識向上につながった。事業の最後に各自がSDGs宣言(葉の形をしたカード)を記入し、「できることから始める木」に貼る手法を取り入れることで、参加者の実践への意欲付けを図ることができた。



(3) 青少年教育に関するモデル的事业

実践研究事業「伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村」(16年目)

1 概 要

大学生は、前半の3日間でリーダーシップや子供への接し方や集団作りの技法、伝承文化について学んだ。後半の日程では、小学生が参加する「子どもむかし生活体験村」の企画・運営を担当した。そして、後半の3日間を小学生とともに過ごす中で、リーダーとしての資質を身に付けるとともに、活動を通して伝承文化を小学生に伝えることができた。

2 参加人数 大学生15名、小学校4～6年生19名

3 満足度【大学生】 *満足:100% *やや満足:0% *やや不満:0% *不満:0%

【小学生】 *満足:95% *やや満足:5% *やや不満:0% *不満:0%

4 成 果

「子どもむかし生活体験村」の準備時間を十分に確保したことで、学生はそれまで学んだ知識や技法を互いに確認し合いながら「子どもむかし生活体験村」の準備にじっくりと取り組むことができた。また、一人ひとりが楽しみながらもそれぞれの課題に真剣に向き合い、充実した日々を送ることができた様子が、リフレクションや満足度100%のアンケート結果からもうかがえた。



特色あるプログラム開発事業「第13回チャレンジカヌーツーリング」(13年目)

1 概 要

国立大洲青少年交流の家において中心的なプログラムであるカヌーを通じて、教育テーマである「やり抜く力の育成」を目指した教育事業である。今年度は昨年度からコースを一部変更して3回実施するとともに、愛媛大学教育学部の日野教授に講師を依頼し、効果的なプログラムや指導法について検証を行った。

2 参加人数 第1回:13組26名 第2回:17組39名 第3回:14組29名

3 満足度 *満足:89.0% *やや満足:10.0% *やや不満:0.0% *不満:1.0%

4 成 果

今年度は、やり抜く力の向上を調査するため、日野氏の助言によりGrit調査を行い、数値の向上が見られた。また、第1回の実施後の振り返りにおいて日野氏より助言をいただき、第2回と第3回では、バディ同士の自己紹介やアイスブレイク、掛け声の練習等に十分な時間をとることにより、コミュニケーション力が向上し、事業実施による一定の成果を上げることができた。



全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」(3年目)

1 概 要

高校生の体験活動を通じた成長を目指し、「地域」を舞台に高等学校学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める事業であり、「オリエンテーション合宿」「実践活動」「地方ステージ」「全国ステージ」4つのプログラムから構成される。

生徒たちは、オリエンテーション合宿で講師の前田真氏から指導を受けながら、フィールドワーク調査や地域課題を見つける手法等について学んだ。その後、実践活動において課題解決に向けた探究活動を行い報告書を作成した。地方ステージでは、8組のグループ



がプレゼン発表を行い、愛媛県立長浜高等学校の「長浜高校PR 漫画『長浜すく〜るらいる』製作委員会へ海と漫画とJKと〜」が全国ステージに出場することとなり、国立青少年教育振興機構理事長賞を受賞した。

2 参加人数 愛媛県立長浜高等学校1年生58名、愛媛県立宇和高等学校三瓶分校1年生15名

3 満足度 *満足:67% *やや満足:27% *やや不満:6% *不満:0% (オリエンテーション合宿の満足度調査)

4 成 果

生徒一人ひとりが実践活動に取り組む中で、課題の解決に向けて真剣に考え、行動することで多くの情報を整理し分析する力も身に付いた。地方ステージにおけるそれぞれのグループの発表は独創性のある内容で、発表態度、表現力からも生徒達の成長を感じることができた。そして、発表を通じて新たな課題も見付けることができ、さらなる探究活動のスタート地点に立つことができた。

(4) 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業

「おおずふれあいスクール」(26年目)

1 概 要

大洲市教育委員会と共催で実施しており、26年目を迎えた。登録児童・生徒に対して、不登校で悩む子供たちの心に寄り添い、心の居場所を提供するとともに、子供たちの自立を促し、進路決定に向けた支援を行った。

2 登録人数 9名(令和5年1月31日現在) *通所延べ人数137名(令和5年1月31日現在)

3 開所日数 152日(令和5年1月31日現在)

4 成 果

運営委員会や専門委員会で情報を共有することで、各地域の子供たちの実態を把握することができた。事業に関するアンケートを運営委員及び専門委員にとったところ、「個々の事情に寄り添った活動が計画的に行われている。」「利用する児童生徒にとって心の居場所となっている。」などと回答をいただいた。事業の目的を概ね達成できていると思われる。年度初めには、教育委員会や各学校に挨拶回りを実施した。また、今年度より出張相談を取り入れた。



生活・自立支援キャンプ「オータムキャンプ in 大洲」

1 概 要

松山市の児童養護施設「愛媛慈恵会」の寮生を対象に、国立大洲青少年交流の家を拠点に1泊2日のキャンプを企画した。カヌー体験や野外炊飯等を行い、自立への支援と生活習慣の改善を図るとともに、寮生にとって楽しい秋の思い出となるよう、多様な体験活動を提供した。

2 参加人数 寮生43名(幼児〜高校3年生)・職員15名

3 満足度 *満足:76.7% *やや満足:23.3% *やや不満:0.0% *不満:0.0%

4 成 果

子供たちからは「日頃接する機会が少ない寮生とも話ができて楽しかった。」「カヌーを上手に漕げた。」など肯定的な感想が多く聞かれた。子供たちはオータムキャンプにおいて達成感や自己肯定感を感じることができ、有意義な事業になった。また、「今度はクライミングに挑戦したい。」といった新たな体験活動への意欲を感じる感想も聞かれた。



生活・自立支援キャンプ「親子でふれあいデイキャンプ」

1 概 要

大洲市母子寡婦福祉連合会の親子を対象に、国立大洲青少年交流の家を会場としたデイキャンプを企画した。野外炊事やネイチャーゲーム、コンサートを通して、自主性や達成感、自己肯定感の向上を図った。また、親子にとって秋の楽しい思い出となるよう、自然の中での活動を多く取り入れた。

2 参加人数 14名（保護者8名、子供6名）

3 満足度 *満足：100% *やや満足：0.0% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

4 成 果

アウトドア料理での4つの新しいメニューは、参加者の今後の参考になるものを提供できた。ネイチャーゲームでは、全員が鶴ヶ森の頂上に登り、遠くに大洲城を展望することができた。また、頂上近くの坂では、ロープを使って登るアドベンチャーも経験できた。コンサートでは、参加者は演奏者の優しい歌声に癒され、心温まる講話は、参加者のこれからの生き方を豊かにしてくれるヒントをもらえる時間となった。



（５）青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業・取組

「青少年教育施設ボランティア養成講座」(30年目)

1 概 要

高校生・大学生が、青少年教育施設や様々な地域でボランティア活動を行うための基本的な知識・技術を学んだ。講義では、ボランティア活動の意義や体験活動の必要性などを知ることができた。また、当施設法人ボランティアがスタッフとして参加し、参加者と関わりながら全ての活動を行った。

2 参加人数 40名（高校生36名、大学生4名）

3 満足度 *満足：72.5% *やや満足：27.5% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

4 成 果

参加者の多くが、日頃からボランティア活動に対して興味をもっており、意欲的に事業に取り組む姿がみられた。参加者同士が交流する場面を設定することで、主体的な活動を促すことができた。また、自身の進路を交えた感想が多くあり、法人ボランティアとして活動していくことだけではなく、今後の自身の在り方について学ぶ機会になった。



「ボランティア育成の取組」

青少年教育におけるボランティア活動を体験し、国立大洲青少年交流の家が主催する教育事業等の運営協力・指導補助等を担うボランティア人材を育成するとともに、青少年教育及び人材育成の観点から、地域社会へ貢献しようとする人材の育成を図った。

1 ボランティアスキルアップキャンプ

6月に夏のカヌー事業に向けて、カヌー活動のスキルアップを図った。

2 各事業におけるボランティア活動

1年を通じ、上記の様々な事業の運営協力・指導補助等として、ボランティア活動を行った。

3 ボランティア自主企画事業

11月に「集まれ！ときが森 みんなで楽しくわくわくキャンプ～大洲の魅力を発見しよう～」という1泊2日のプログラムをボランティア自ら企画し運営を行った。

4 ボランティアフォローアップキャンプ

1年間の活動を振り返り、成果と課題を共有し、よりよいボランティア活動にしていけるための研修を行った。



詳しくは、国立大洲青少年交流の家ホームページをご覧ください。

<https://ozu.niye.go.jp/event/>

2. 研修支援

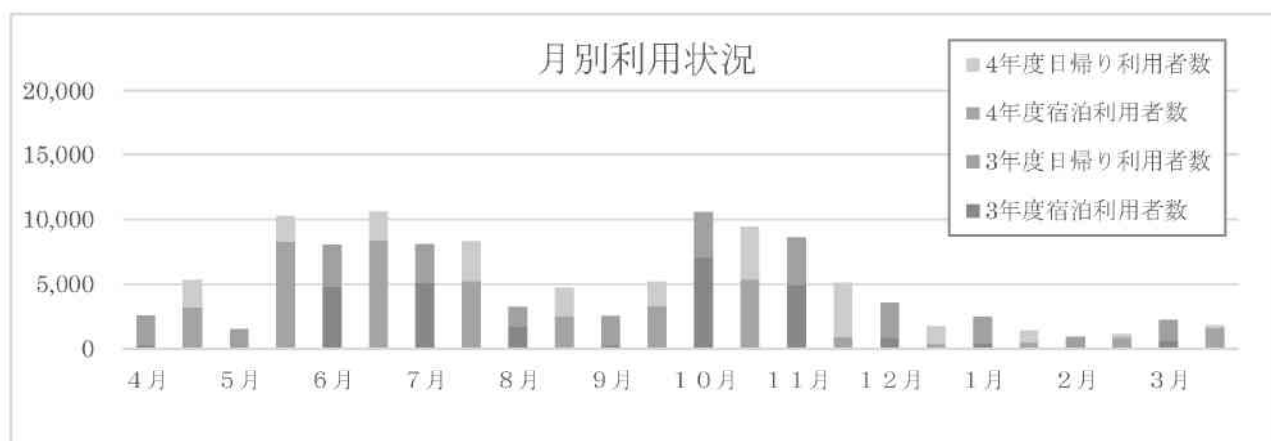
(1) 施設の利用状況

利用形態は宿泊型研修と日帰り型研修がある。令和4年度の宿泊利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたものの、昨年度と比較して大幅に増加した。なお、日帰り利用者数は、昨年度とほぼ同数となっている。

また、学校の集団宿泊研修について、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、10月～11月に日程変更を伴う利用が多かったものの、今年度は当初予定していた4月～9月までに研修の実施ができたため、同月で比較すると利用人数は減少している。

昨年度と比較して宿泊利用者数は増加しているが、依然として新型コロナウイルス感染症の影響によるキャンセル件数は多く、予定していた利用者数から減少している状況は続いている。

なお、月別の利用状況は次のとおりである。



(令和4年度は1月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3年度宿泊	263	0	4,796	5,119	1,717	268	7,034	4,915	851	432	0	647	26,042
4年度宿泊	3,198	8,268	8,396	5,208	2,505	3,339	5,371	916	375	510			38,086
3年度日帰り	2,304	1,520	3,266	2,957	1,518	2,278	3,499	3,683	2,719	2,035	919	1,591	28,289
4年度日帰り	2,141	2,006	2,203	3,095	2,235	1,867	4,047	4,202	1,394	919			24,109

(2) 利用団体の研修に対する指導・助言の充実

- ① 利用団体の研修目的に応じ、効果的な研修を実施できるよう、事前相談において、教育的なねらいを踏まえた指導・助言を行うとともに、利用団体からのアンケート結果を基に効果的な研修が実施できるよう改善に努めた。
- ② 学校が行う集団宿泊研修について、「集団宿泊研修担当者研修会」を4月～7月にかけて4回開催し、105名の参加があった。担当者に研修の意義・内容についての助言を行うとともに、研修を安心して実施できるように当交流の家の新型コロナウイルス感染症対応について説明を行い、充実した研修会となった。
- ③ 利用団体の研修目的達成のため、職員や研修指導員による直接指導に努めた。なお、水辺の活動であるカヌープログラムにおいては、新型コロナウイルス感染症の影響もありコロナ禍以前と比べ利用団体が少ない状況ではあったが、年間約170回の直接指導を行い約12,500名の参加者へ指導を行った。
- ④ 利用団体と安全対策や危険回避に関する事項及び利用者の健康状態や天候等の情報交換を密にし、利用者の安心と安全に万全を期した。

（３）研修利用の促進

昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、研修利用促進にかかる計画の見通しが立たなかったものの、当交流の家の新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿って感染対策を万全にした形で、職員による出前講座を行ったり、研修支援事業のプラン利用（屋外活動や昼食利用を含めた日帰り利用）を実施したりと利用促進を図った。

３．連携促進等

（１）青少年教育施設・団体との連携促進

愛媛県を中心とした青少年の健全育成に携わる団体のネットワーク構築のため、当交流の家にて開催される「地域教育実践交流集会」に協力し、青少年をめぐる諸課題への円滑な対応を推進した。また、中四国地区青少年教育施設連絡協議会の担当施設として職員研修会を行った。

なお、県下の無人島にて行われる「御五神無人島キャンプ」の準備・運営にも協力する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

（２）学校との連携促進

伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村において、愛媛大学及び松山東雲女子大学と連携し、単位の取得や授業時数にカウントできる事業として位置付けるとともに広報も連携して行い、学生の参加促進を図った。

（３）愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業

① 概要

昨年度までは「大洲から『体験の風をおこそう』運動推進事業」として実施していたが、これまでの成果を基に、今年度から「愛媛から『体験の風をおこそう』運動推進事業」とし、実行委員会の構成団体に愛媛県の団体に多く入っていただき、さらに広域に普及を図った。

② 実行委員会の構成（順不同）

うわじまアウトドアスポーツクラブ宇和島山岳会、一般社団法人大洲青年会議所、愛媛県歴史文化博物館、愛媛県PTA連合会、大洲市教育委員会、株式会社ケーブルネットワーク西瀬戸、大洲市カヌー協会、愛媛県立大洲農業高等学校、愛媛県教育委員会事務局社会教育課、愛媛県国公立幼稚園・こども園教育研究協議会、愛媛県連合婦人会、国立大洲青少年交流の家（事務局）

③ 主な取組

「親子でアウトドア」と「体験フェスティバルin交流の家」の実施や以下の地域事業に体験活動ブースを出展し、体験活動の普及・啓発や「体験の風をおこそう」運動・「早寝早起き朝ごはん」国民運動を推進した。さらに、子どもゆめ基金助成活動申請予定団体を対象に、松山の会場や当交流の家で子どもゆめ基金説明会を実施した。

- ・ 大洲まつり実行委員会主催「大洲まつり」への参加
- ・ 大洲市教育委員会主催「科学体験フェスティバルin大洲」への協力
- ・ 「えひめ生涯学習“夢”まつり」への参加
- ・ 「愛媛大学学生祭」への参加

４．今後の課題

（１）教育事業

各事業における効果的な運営及び成果の発信・普及と質の充実

（２）研修支援

安全管理対策の充実と利用者にとって効果的で質の高いプログラムの提供

（３）連携協力・地域ぐるみ

多様なネットワークの構築と関連施設との連携及び効果的な普及啓発活動

その他の取組

令和4年度 中四国地区青少年教育施設連絡協議会職員研修会

1 概 要

中四国地区青少年教育施設連絡協議会の担当施設として、加盟している施設職員の資質・能力の向上を図るとともに、情報の交換や交流を通して、加盟施設間の連携を促進することを目的に、11月8～10日（2泊3日）の日程で実施した。

新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、参集型とオンラインでの参加型のハイブリット開催（ただし、オンラインでの参加は1日目の基調講演と各施設の取組発表のみ）とした。また、基調講演のテーマや研修内容の要望等を事前に各施設に照会し、参加者にとって実りある研修となることを目指した。



2 参加人数 28名（参集型が23名、オンラインでの参加型が5名）

3 満足度 ＊満足：87.0％ ＊やや満足：13.0％ ＊やや不満：0.0％ ＊不満：0.0％

4 成 果

参加者の感想や満足度調査の結果から、満足度の高い研修会となった。事前にアンケートを取り、各施設の協力を得ながらニーズや課題等を把握し、SDGsをテーマとして企画・準備を進めてきたことが一つの要因である。さらに、コロナ禍ではあったが、参集型を主体としたことで、参加者が直接協議したり交流したりすることができたことも、研修の充実につながった。

愛リバー・サポーター制度を活用したカヌー研修場の清掃活動

1 概 要

毎年1万人以上が利用しているカヌープログラムは、当施設のメインプログラムとして多くの人に親しまれている。より多くの方が利用するカヌー研修センターの施設とカヌー活動を実施している河川場において清掃活動を実施することで、利用しやすい環境を整え、安全面の向上や親しみやすい場所になることを目指した。



2 活動内容

愛リバー・サポーター制度の団体登録をして、粗大ゴミや不燃物、可燃物等の収集、除草を今年度3回行った。実施後はゴミの回収を大洲市に依頼するとともに、大洲土木事務所に活動報告書を提出した。

3 成 果

多くの利用者が利用する河川になるので、海洋汚染につながるプラスチックゴミをはじめ、針金やガラス片などでけがをする可能性のあるゴミなどを回収することもでき、利用者の安全面の向上にもつながった。さらに、今回の件では、単独職員が自主的に清掃活動をするだけでなく、県に対して取組を発信することにもつながり、地域貢献へとつながることができた。

利用者にとって安心安全な施設を目指して

当施設のグランドデザインにも掲げているように、利用者にとって安心安全な施設づくりを推進していくことは、重要な責務である。そのため、当施設で職員による安全点検、衛生管理、消防・避難誘導訓練、安全管理・防犯研修等を定期的に行っている。

近年、施設の経年劣化により、複数箇所外壁の剥落が起こっていたため、10月から11月にかけて、外壁の補修工事を実施した。補修工事に伴い外壁塗装も行われ、外観が美しくなったことで、再来年度の50周年記念事業を気持ちよく迎えることができる。



また、当施設の人気のプログラムであるカヌーのライフジャケットの保管棚の高さを、身長が低い小学生でも取りやすい高さにしたり、教材室を整理して利用団体への物品の貸出をしやすくしたりした。今後も、利用者の目線に立って、利用者にとって安心安全な施設づくりに努めていきたい。

令和4年度 国立大洲青少年交流の家 実施事業一覧

種類	事業名	期 間	対 象	募集人数	参加人数
体験活動普及啓発等の事業の重要性	【愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業】 親子でアウトドア	①②7月2日(土) 午前・午後 ③④7月10日(日) 午前・午後 ⑤⑥7月17日(日) 午前・午後 *⑤⑥は荒天により中止	小学3～6年生とその保護者	各回 25組 程度	①22組46名 ②21組46名 ③23組52名 ④21組47名
	【愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業】 体験フェスティバルin交流の家	10月15日(土)	大洲市近隣の青少年・一般	4000名 程度	1250名
社会の要請等に応える 体験活動等に関する事業	【体験活動普及啓発事業】 読書活動普及啓発事業	①絵本ライブ&ラリー 11月5日(土) ②本とホント探索隊 12月10日(土)	幼児・小学生・中学生・高校生とその保護者	各回 15組 程度	①45名 ②21名
	【体験活動普及啓発事業】 書道で感動！親子でわくわく体験	1月21日(土)	小学生・中学生とその保護者	20組 程度	53名
	親子でSDGs 秋を楽しもう！	11月20日(日)	小学4～6年生とその保護者	15組 程度	26名
青少年教育に関する事業	【実践研究事業】 伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村 (子どもむかし生活体験村)	①伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村・7月20日(水) オンラインガイダンス・8月16日(火)～21日(日) 5泊6日 ②子どもむかし生活体験村 8月19日(金)～21日(日) 2泊3日	①大学生 ②小学4～6年生	①15名 程度 ②20名 程度	①15名 ②19名
	【特色あるプログラム開発事業】 チャレンジカヌーツーリング	第1回 7月23日(土) 第2回 8月7日(日) 第3回 8月27日(土)	小学5～6年生とその保護者	各回 30名 程度	第1回：13組26名 第2回：17組39名 第3回：14組29名
	【全国高校生体験活動顕彰制度】 地域探究プログラム	4月～2月	高等学校生徒		長浜高校58名 宇和高校三瓶分校 15名
支援課題を抱える青少年を 支援する事業	おおずふれあいスクール	通年(開校中の月・火・木・金曜日)	不登校児童・生徒(不登校傾向も含む)及び引きこもりがちな青少年	15名 程度	登録人数：9名 (通所延べ人数： 137名)
	【生活・自立支援キャンプ】 オータムキャンプ in 大洲	10月22日(土)～23日(日) 1泊2日	愛媛県内の児童養護施設に入所の園生	50名 程度	寮生43名 施設職員15名
	【生活・自立支援キャンプ】 親子でふれあいデイキャンプ	10月29日(土)	ひとり親家庭の幼児・小学生・中学生・高校生とその保護者	20名 程度	14名
養指成事者等	【ボランティア養成事業】 青少年教育施設 ボランティア養成講座	5月28日(土)～29日(日) 1泊2日	ボランティアに興味・関心のある高校生以上の青年	30名 程度	40名
	【ボランティア研修事業】 ①スキルアップのための研修 ②ボランティアによる自主企画 ③フォローアップのための研修	①6月26日(日) ②11月26日(土)～27日(日) 1泊2日 ③3月4日(土)～5日(日)	①・③ボランティアに興味・関心のある高校生以上の青年 ②小学4～6年生	各回 15名 程度	①8人 ②13人 ③6名 *③は2/10時点
その他	地域連携 (県内イベントへのブース出展等)	①大洲まつり 11月3日(木) ②第72回愛媛大学学生祭 11月12日(土) ③えひめ生涯学習“夢”まつり 11月27日(日)			①959名 ②216名 ③146名
	集団宿泊研修担当者研修会	①4月16日(土) ②5月7日(土) ③6月18日(土) ④7月30日(土)	小学校・中学校・高等学校教員	各回 30名 程度	①29名 ②44名 ③22名 ④10名
	大学カヌー実習	①長崎国際大学 *中止 8月27日(土)～8月31日(水) ②広島国際大学 8月29日(月)～8月31日(水) ③松山大学 8月31日(水)～9月2日(金)	大学生および大学職員	各大学 50名 程度	②36名 ③6名

※ 各事業内容等につきましては、国立大洲青少年交流の家HPでご確認ください。

令和5年度 国立大洲青少年交流の家 実施事業一覧

種類	事業名	期 間	対 象	募集人数
体験活動等 の普及啓発 事業の重要性	【愛媛から「体験の風をおこそう」 運動推進事業】 親子でアウトドア	①9月3日（日）（カヌーツーリング版） ②9月24日（日）（カヌー体験版） ③11月12日（日）（防災体験版）	小学3～6年生とその保護者	各回 25組 程度
	【愛媛から「体験の風をおこそう」 運動推進事業】 体験フェスティバルin交流の家	10月21日（土）	大洲市近隣の青少年・一般	4000名 程度
社会の要請等 に 体験活動等 事業	【体験活動普及啓発事業】 読書活動普及啓発事業	①12月10日（日） ②1月28日（日）	幼児・小学生・中学生・高校生 とその保護者	各回 15組 程度
	【体験活動普及啓発事業】 書道で感動！親子でわくわく体験	1月21日（日）	小学生・中学生とその保護者	20組 程度
	親子でSDGs 秋を楽しもう！	11月19日（日）	小学4～6年生とその保護者	15組 程度
青少年教育に 関する モデル的 事業	【実践研究事業】 伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村 （子どもむかし生活体験村）	①伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村 8月22日（火）～27日（日） 5泊6日 ②子どもむかし生活体験村 8月25日（金）～27日（日） 2泊3日	①大学生 ②小学4～6年生	①15名程度 ②20名程度
	【特色あるプログラム開発事業】 チャレンジプログラム	第1回 7月16日（日） 第2回 8月6日（日） 第3回 8月20日（日）	小学5～6年生とその保護者	各回 30名 程度
	【全国高校生体験活動顕彰制度】 地域探究プログラム	4月～2月	高等学校生徒	/
課題を抱える 青少年を 支援する 事業	おおずふれあいスクール	通年（開校中の月・火・木・金曜日）	不登校児童・生徒（不登校傾向 も含む）及び引きこもりがちな 青少年	15名 程度
	【生活・自立支援キャンプ】 サマーキャンプ in 大洲	7月24日（月）～26日（水） 2泊3日	愛媛県内の児童養護施設に入所 の園生	50名 程度
	【生活・自立支援キャンプ】 親子でふれあいデイキャンプ	10月29日（日）	ひとり親家庭の幼児・小学生・ 中学生・高校生とその保護者	20名 程度
養 成 指 導 事 業 等	【ボランティア養成事業】 青少年教育施設 ボランティア養成講座	6月17日（土）～18日（日） 1泊2日	ボランティアに興味・関心のあ る高校生以上の青年	30名 程度
	【ボランティア研修事業】 ①ボランティアによる自主企画 ②フォローアップのための研修	①11月25日（土）～26日（日） 1泊2日 ②3月2日（土）～3日（日） 1泊2日	①小学4～6年生 ②ボランティアに興味・関心の ある高校生以上の青年	各回 15名 程度
そ の 他	地域連携 （県内イベントへのブース出展等）	通年	/	/
	集団宿泊研修担当者研修会	①4月15日（土） ②5月13日（土） ③6月24日（土） ④7月29日（土）	小学校・中学校・高等学校教員	各回 30名 程度
	大学カヌー実習	8月～9月	大学生および大学職員	各大学 50名 程度

※ 日程や内容等を変更することがあります。各事業内容等につきましては、国立大洲青少年交流の家HPでご確認ください。



独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立大洲青少年交流の家

〒795-0001 愛媛県大洲市北只1086番地
TEL(0893)24-5175 FAX(0893)24-2909
URL:<https://ozu.niye.go.jp/>
e-mail:ozuzippy@niye.go.jp

体験の風を
おこそう

